1 自己評価及び外部評価結果

（ ユニット名　西通り ）

事業所番号	0691900013		
法人名	特定非営利活動法人あすなろの会		
事業所名	グループホームあすなろ南陽		
所在地	山形県南陽市宮内2767-15		
自己評価作成日	平成22年8月31日	開設年月日	平成18年12月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。（↓このURLをクリック）
（公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。）

基本情報リンク先	http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	㈱ 福祉工房		
所在地	〒981-0943　仙台市青葉区国見1丁目19番6号-2F		
訪問調査日	平成22年9月28日	評価結果決定日	平成22年10月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

一人ひとりの思いを感じて、相手の立場になりケアする事を心がけています。できる事はなるべく長い目で見守り自信が持てる様待つ姿勢を大事にしています。ミュージックケアは日課の中で定着し職員・入居者双方でも楽しめるようメニューを工夫している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

＊ユニット東通りに記載

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1．ほぼ全ての利用者の
			2．利用者の2/3くらいの
			3．利用者の1/3くらいの
			4．ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1．毎日ある
			2．数日に1回程度ある
			3．たまにある
			4．ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1．ほぼ全ての利用者が
		○	2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1．ほぼ全ての家族と
			2．家族の2/3くらいと
			3．家族の1/3くらいと
			4．ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1．ほぼ毎日のように
			2．数日に1回程度
			3．たまに
			4．ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1．大いに増えている
		○	2．少しずつ増えている
			3．あまり増えていない
			4．全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1．ほぼ全ての職員が
			2．職員の2/3くらいが
			3．職員の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1．ほぼ全ての家族等が
			2．家族等の2/3くらいが
			3．家族等の1/3くらいが
			4．ほとんどできていない

山形県地域密着型サービス「１　自己評価及び外部評価（結果）」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングや朝の申し送り時等、常に理念を振り返り、共有・実践を心がけている。		
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の春のお祭りには、おみこしを施設前で見せて頂けるよう地区長さんに子ども会等へ伝えて頂き、毎年参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームというところを理解して頂ける様、推進会議や老人クラブの方に話をさせて頂いたりしている。が、まだまだ地域にはアプローチが足りないと思う。		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方からみたグループホームの印象をお聞きしたり、こちらの取り組みを説明することで、お互いの交流をしながらサービス向上の参考にしている。		
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	南陽市の福祉課課長さんが毎回出席していただいているおかげで現状を理解してもらっており、メールのやり取りを密にして情報を共有している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	現在ベット柵を2個しなければいけない方には事前に家族の同意を頂いており、又、本人の意向を尊重し、拘束せずゆっくり過ごせるよう雰囲気づくりに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	全員が虐待防止について学ぶ機会を設けている。（交代で何期かに分け、あすなろの研修の最重要事項としてとり組んでいる。）		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性のある方については、身元引受人・Dr・・市役所に相談し、話し合い、様子を見ているケースがある。いつでも状況を説明できるよう周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入院等でやむ終えず退所する方には十分な説明をして誤解されるよう配慮している。改正時は書面と説明をして同意を頂いている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の報告を推進会議等で話したり、意見等はケアに反映できるよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月１回のミーティングで、議題を持って討議している。各会議の報告をし、意見も聞くようにしている。又、申し送り時気づいた点は日々早急に解決できる様に上司に提案している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各人目標を期間を区切って持ち、常に振り返りをしている。又アンケート等も活用し、個々が向上心を持てる様に配慮している。		
13	（7）	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりがスキルアップできるよう社内研修会を設けたり、外部の研修会にも参加するよう努めている。日々のケアの中でも申し送り時等に対応の仕方を確認したり検討している。		
14	（8）	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県のGH協の活動に積極的に取り組んでいる。お互いの活動の情報交換やメールのやり取り等で深めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査時に今後安心して入所して頂ける様に十分な聞き取りを行っている。それでも不十分と思われるときは、入所してからも聞ける雰囲気を作り、把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居するにあたり今までの流れを大枠で把握し、どのような状態が望ましいか確認している。不安の無い様に関係作りに努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		**○初期対応の見極めと支援** サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までの生活習慣の継続ができる様努力している。難しい時は、一番望んでいる事を聞き安心できる様に努めている。		
18		**○本人と共に過ごし支えあう関係** 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	擬似家族として、お互いの考えを自然に言える様な雰囲気作りに努めている。又、入所者の意見を優先し、同じ目線で対応するよう努めている。		
19		**○本人を共に支え合う家族との関係** 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院や外出等家族にしかできない事があるので、家族の行動を本人と一緒に聞いてお互い感謝し合える様な環境づくりに努めている。		
20		**○馴染みの人や場との関係継続の支援** 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設から近い所なら職員と一緒に出かけたり、友人に電話し行き来ができる様に支援している。		
21		**○利用者同士の関係の支援** 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う仲間と楽しく過ごせるよう食席を検討したり、職員が中に入り、入所者同士が支えあえるよう環境づくりに努めている。		
22		**○関係を断ち切らない取組み** サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで一旦退所した方にも家族から相談等あった場合はいままでの関係を急に断ち切ることなく受けるようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	**○思いや意向の把握** 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	安心して毎日を過ごせる様に常に利用者に寄り添い意向の確認をしている。食べたいものを聞いたり外出などできるだけ支援している。		
24		**○これまでの暮らしの把握** 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	最初はフェースシートで把握し、さらに実際の支援や会話の中から昔の暮らしを知り、少しずつ深められる様に努めている。		
25		**○暮らしの現状の把握** 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各種チェック表をもとに一人ひとりの現状を把握している。各自の日課や手伝い等を見ながら個人の把握をしている。		
26	（10）	**○チームでつくる介護計画とモニタリング** 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1回のモニタリングを実施。その他急な変化にはその都度対応している。さらに月1回のカンファレンスで情報の共有と意見交換を行っている。		
27		**○個別の記録と実践への反映** 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各種チェックシートを利用し書式を検討しながら個人の把握を行っている。又職員間で個人記録の充実に努めている。カンファレンス等で常に計画の見直しを行っている。		
28		**○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化（小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載）** 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		**○地域資源との協働** 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個別になじみの商店や地域の催しに参加したり、出かけたりして今までの生活を忘れないように努めている。又通院時こ個別に風物に触れられるよう配慮している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	（11）	**○かかりつけ医の受診支援** 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向を優先し、かかりつけ医へは受診報告書を利用し状況報告に努めている。さらに急変したときは電話にて状況報告し独自のチェック表を用いバイタルや数値を見てもらい指示を仰いでいる。		
31		**○看護職員との協働** 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は配置していないが、往診時同行の看護師に前もって情報うを伝えそのうえでDRからの指示をもらっている。		
32		**○入退院時の医療機関との協働** 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は医療機関へ細かい情報を伝え入院中は、定期的にお見舞いに行き、状況の把握に努めている。又、入院治療が必要になった時は、かかりつけ医にすみやかに相談し状態に応じ紹介状を書いて頂いている。		
33	（12）	**○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援** 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、意向確認を行っている。看取りについても意向は把握しているが、現段階であすなろではまだ体制作りはできていない。		
34		**○急変や事故発生時の備え** 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習を全員受け、救急時に備えている。緊急連絡網や利用者情報を作成し、迅速に対応できるようにしている。対応の訓練は定期的には行っていないが、私たちが出来るところまではいつでも迅速にできるよう意識づけを行っている。		
35	（13）	**○災害対策** 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。運営推進会議の中で地域の方に協力をお願いし、体制が整い次第合同の訓練を予定している。あすなろの防火管理者の集まりを経て実施予定。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	（14）	**○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保** 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使い・声がけ・態度など自尊心を傷つけないように配慮している。居室・トイレ・浴室などは特にプライバシーに気を配っている。		
37		**○利用者の希望の表出や自己決定の支援** 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が話しやすい雰囲気作りと信頼される様に関係作りに努めている。表情やしぐさなどから思いを汲み取れるよう心がけている。お茶の時間や食事の時間等にさりげなく声がけをしている。		
38		**○日々のその人らしい暮らし** 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大事にしている。特に食事や入浴は本人のサイクルに合わせ無理強いをしない様心がけている。個々の希望も取り入れ心地よく過ごせる様努めている。		
39		**○身だしなみやおしゃれの支援** その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出・更衣時は本人の希望を聞き、身につけられる様に配慮している。又、お化粧タイムやマニュキュアを塗っておしゃれを楽しんでいる。		
40	（15）	**○食事を楽しむことのできる支援** 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立つくり・下ごしらえ・盛り付け・配膳などできることは一緒に行い、一緒に食事をしている。又、好きな食材は調理方法を聞きそれを皆で食べる事で食事が楽しくなるよう心がけている。		
41		**○栄養摂取や水分確保の支援** 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量が少ない方には、代換えの食材や糖分の多い物を食べてもらい、体重の減少が無いよう努めている。体重過多の方には、カロリーを考えたメニューを作ったり、特に水分に関しては、チェック表を元に管理し、脱水の無いよう努めている。		
42		**○口腔内の清潔保持** 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声がけ誘導にて行っている。自分で磨いてから不十分なところは、職員が食物残渣を確認し、必要時磨き直しをしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	（16）	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導・声がけ・交換を行っている。自分で訴える方には、そのつど介助している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩に行ったり、歌を唄うながら身体を動かしたり個別メニューなど工夫している。又、水分の摂取や食物繊維を積極的に摂取する様に努めている。		
45	（17）	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には午後に入浴を設定しているが、夕食後に入りたい方には個別対応している。又、毎日入浴したい方は、希望通り対応している。入浴剤等の工夫もしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室に自分の好きなものや以前から使用していたタンス・テレビ等を置き、落ち着いてすごせる様雰囲気作りに努めている。部屋で休息したいという方には、本人の意向を優先し休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を基に個々に対応している。薬の種類や量が変更になった時は全員に申し送り、様子観察しバイタル・様子などを記録し把握している。必要時Drに報告したり通院したりしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔、得意だった事を聞いたり話をする事で楽しかった頃を思い出してもらっている。又、できる事をしてもらい生きがい・役割を持ってすごせる様に配慮している。		
49	（18）	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所に知り合いがいる方には、個別に外出の支援をしている。又、季節の花を見にバスハイクの企画を積極的にしている。地域の方の協力はまだ体制が整っていない。家族には必要時外出の支援をしてもらっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別に買いたいものがある時は、一緒に買い物に出かけている。基本的に現金は金庫で保管されているが必要時適当な金額を家族の同意を得て使っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をしたい時は、個別対応している。家族からもたまにかけてもらい本人の精神安定を図っている。遠方の友人との手紙のやり取りも支援している。		
52	（19）	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋の明かり･空調の管理に常に気を配っており、心地よくすごせる様に配慮している。共有スペースは常に快適に使用できるよう清掃･消毒をしている。又季節毎、花や写真を飾り季節感を味わえるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファーを置いたり、テーブルの位置や座る位置を時々変え気分転換を図っている。気の合った人と過ごせるよう椅子の場所など工夫している。		
54	（20）	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の寝具や衣類タンスやケース等は自宅で使用していた物を使用してもらうなど馴染みのものを持ってきてもらえるよう家族に協力してもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	物干しや茶碗洗い･茶碗拭きなど姿勢が無理なくできるようスタッフが随時配慮している。作業は待つ姿勢で、入居者のできる事を取らない心がけをしている。		